

## メタクリル酸2-（ジメチルアミノ）エチル（CAS番号：2867-47-2） の変異原性試験の結果等について

### 1 遺伝毒性評価に使用した試験結果（文献調査）

	試験の種類	陽性・陰性の別	定量値	備考
i	エームス試験①	陽性	3.60×100 rev/mg	
ii	エームス試験②	陰性		
iii	染色体異常試験①	陽性	0.19 mg/mL	
iv	染色体異常試験②	陽性	5.4 mg/mL	
v	in vivo 小核試験①	陰性		
vi	in vivo 小核試験②	陰性		
vi	HPRT 試験	陰性		

※ 平成25（2013）年度遺伝毒性評価WG資料より抜粋

### 2 平成25（2013）年度遺伝毒性評価WGでの結論

#### 弱い遺伝毒性あり

### 3 経過

#### ① 平成25（2013）年度第2回遺伝毒性評価WG

- ・ 化審法のスクリーニング評価のために文献調査を行った1,878物質から、「国際機関等による発がん性分類に関する情報がなく、遺伝毒性に関する何らかの情報がある物質」として619物質を選定
- ・ 遺伝毒性評価WG委員5名で分担し、第2回WG前に619物質の遺伝毒性の評価を実施した際のメタクリル酸2-（ジメチルアミノ）エチル（作業用番号：426番）の評価結果は「③強い遺伝毒性あり」

#### ② 平成25（2013）年度第3回遺伝毒性評価WG

- ・ 第3回WG前の再評価では「③強い遺伝毒性あり」から変更はなかったが、第3回WGでの精査の結果、「③強い遺伝毒性あり」から「②弱い遺伝毒性あり」に変更

#### ③ 平成25（2013）年度第4回遺伝毒性評価WG

- ・ 第3回WGでの精査の結果を報告（メタクリル酸2-（ジメチルアミノ）エチルは「②弱い遺伝毒性あり」との位置付け。）

(参考) 平成 25 (2013) 年度第 3 回遺伝毒性評価WG議事録抜粋

○本間委員 次の 426 番です。こちらはメタクリル酸 2-エチル、エームス試験は陽性、1 件は陰性、染色体異常試験は 2 件あって陽性、小核試験は陰性です。エームス試験はそれほど強くはないのですが、染色体異常はデータを見るとかなり強い陽性反応が出ています。したがって、vivo の試験は陰性ではありますが、染色体異常試験が非常に高い陽性を示したということで、最終的な判断は強い陽性と考えました。

○清水座長 426 番はメタクリル酸 2-(ジメチルアミノ)エチルという物質で、4,000 トンの生産量で、樹脂類の合成原料、繊維処理剤、潤滑油添加剤、ゴム配合剤などに使われている物質です。エームスは弱いようですが、染色体異常は、D20 値が 0.19 とか 5.4 ですが、これを強いと判断するかどうか。ほかの in vivo は陰性ですね。D20 値は 0.01 以下であれば、非常に強いということで、それはそれほどでもないですね。

○本間委員 数字を見る限り、構造異常が 74%、最高用量だけです。これは弱いと判定しましょう。強い染色体異常は最高用量に限った反応と考えます。

○清水座長 では、弱い遺伝毒性であり、行政対応は必要なしという判断でよろしいですか。